

IV-8 沖縄

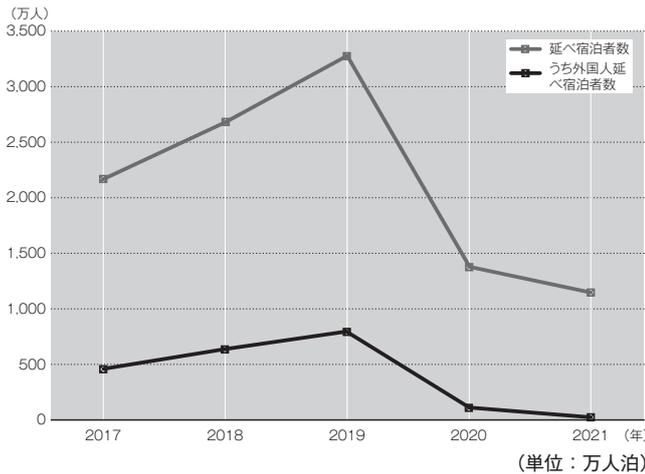
2021年の入域観光客数は301.7万人(暦年)で
2020年からさらに減少
2019年に293万人を記録した外国人客数はゼロに
一方で、宿泊施設の開業は高水準で進む

(1) 都道府県レベルの旅行者動向

観光庁「宿泊旅行統計調査」によると2021年1月～12月の沖縄県の延べ宿泊者数は1,147万人泊となり、前年比16.8%の減少(232万人泊減)となった(図IV-8-1)。

一方、外国人延べ宿泊者数は24万人泊となり、前年比77.7%減(83万人泊減)で、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を初めて受けた2020年からさらに延べ宿泊者数・外国人延べ宿泊者数ともに減少した。

図IV-8-1 延べ宿泊者数の推移(沖縄)



(単位：万人泊)

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
延べ宿泊者数	2,169	2,679	3,287	1,379	1,147
うち外国人延べ宿泊者数	462	620	775	107	24

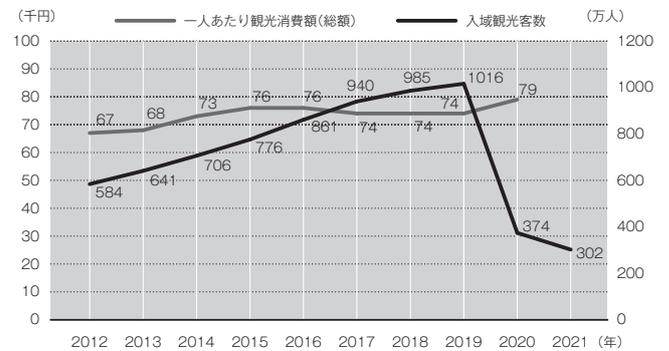
資料：観光庁「宿泊旅行統計調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

沖縄県が推計している「入域観光客数(含ビジネス客)」は、2021年(暦年)で301万7千人となり、前年比19.3%減(72万人減)と東日本大震災の影響を受けた2011年以降の前年減となった2020年に引き続きの減少となった(図IV-8-2)。

その入域観光客数の301万7千人すべてが国内客で、外国人客は皆減(ゼロ)となった。外国人客は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域から日本への入国制限措置がとられたことにより、本土復帰後初めての0人となった。一方、国内客数は、前年に沖縄県から緊急事態宣言及び緊急特別対策が発出された4月、5月、6月、8月、12月については前年を上回ったものの、それ以外の月は前年をさらに下回る結果となり、年間を通じては13.3%の減少となった(図IV-8-3)。

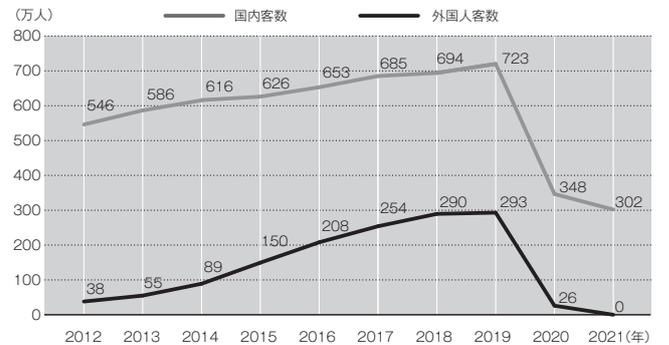
離島の動向を見ると、沖縄県八重山事務所が公表している八重山地域の入域観光客数は、2021年(暦年)が55万2千人(前年比15.2%減)となった。一方、宮古島市が公表している宮古島の観光客数は40万7千人(前年比7.6%減)といずれも前年から減少となった。沖縄県全体の減少幅と比較すると、八重山地域はやや減少幅が大きく、宮古島はやや減少幅が抑えられた結果となった。ただし、2019年比で見ると八重山地域は62.7%減、宮古島は64.3%減と同程度的大幅減となっており、県全体の減少幅58.3%よりも大きくなっている(図IV-8-4)。

図IV-8-2 入域観光客数と一人あたり観光消費額の推移



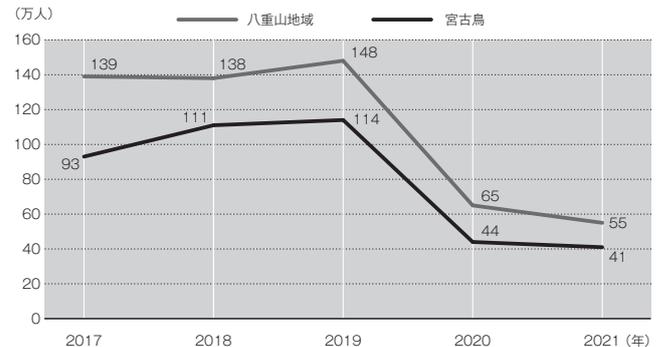
資料：沖縄県「観光統計実態調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

図IV-8-3 国内客数と外国人客数の推移



資料：「沖縄県入域観光客数統計概況」をもとに(公財)日本交通公社作成

図IV-8-4 八重山地域及び宮古島の入域観光客数の推移



資料：沖縄県「八重山入域観光客数統計概況(推計)」及び宮古島市「宮古の入域観光客数」をもとに(公財)日本交通公社作成

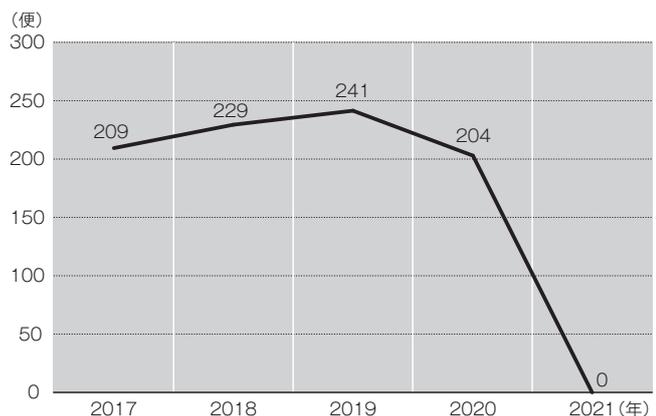
(2) 観光地の主な動向

新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、2020年の国際線はすべて運休となった。一方、一部で開業延期なども見られていた宿泊施設については、引き続き開業ラッシュが続いている。

●国際線の状況(全便運休)

2020年の国際線は、那覇空港、新石垣空港及び下地島空港のいずれにおいても全便運休となった。

図IV-8-5 那覇空港及び新石垣空港(南ぬ島石垣空港)における国際線(直行便)の便数(週あたり)の推移



資料：沖縄県「観光要覧」をもとに(公財)日本交通公社作成

※2017年から2019年は6月1日、2020年は1月末日現在の便数を掲載

●宿泊施設の開業

2021年から2022年前半にかけてオープンした主な宿泊施設(名称変更などによるリニューアルオープンを含む)を表IV-8-1に示す。期間を通して沖縄本島、離島地域それぞれで多くのホテルが開業し、2020年に引き続き、大幅な施設数・収容人数の増加となった(施設数・収容人数の解説は(4)で改めて行う)。

2021年は、那覇市で「ヒューイットリゾート那覇」(7月)などの大型ホテルが開業した他、5月には星野リゾートによる県内5施設目となるホテル「OMO5沖縄那覇 by 星野リゾート」が開業した。また、沖縄本島では恩納村の「HIYORI オーシャンリゾート沖縄」や北谷町の「MBギャラリーチャタン by ザ・テラスホテルズ」など西海岸での開業が相次いだ。一方、離島地域でも宮古島市の「ホテル・トリフィート宮古島リゾート」などが開業している。

2022年に入ってもホテルの開業が続いており、特に那覇市内において、「HOTEL SANSUI NAHA」「ネストホテル那覇西」「ホテルリソルトトリニティ那覇」「レンブラントスタイル那覇」「ホテル・アンドルームス那覇ポート」など150室から300室程度の中規模ホテルの開業が相次いでいる。

また、4月には宜野湾市に「沖縄プリンスホテル オーシャンビューぎのわん」(340室)、7月には糸満市に「琉球ホテル&リゾート名城ビーチ」(443室)などの大型リゾートホテルが開業した。

●観光関連施設の開業

2021年から2022年前半にかけてオープンした主な商業施設・アミューズメント施設を始めとした観光関連施設を表IV-8-2に示す。

表IV-8-1 2021年から2022年前半にかけてオープンした主な宿泊施設

年月	宿泊施設名	所在地	室数
2021年 1月	かりゆしコンドミニウムリゾート 那覇 龍神ホテル浮島	那覇市	53室
3月	ホテルグランビュー石垣新川	石垣市	61室
3月	HIYORI オーシャンリゾート沖縄	恩納村	203室
3月	ホテル・トリフィート宮古島リゾート	宮古島市	207室
3月	HOTEL R9 The Yard 宮古島	宮古島市	59室
3月	Rakuten STAY 那覇美栄橋	那覇市	27室
4月	ネストホテル那覇久茂地	那覇市	120室
4月	MBギャラリーチャタン by ザ・テラスホテルズ	北谷町	88室
4月	ホテル カクテルステイナハ	那覇市	100室
4月	那覇クリスタルホテル	那覇市	105室
4月	oile by DSH Resorts	北谷町	44室
5月	OMO5沖縄那覇 by 星野リゾート	那覇市	190室
6月	ロワジール テラス&ヴィラズ古宇利	今帰仁村	44室
6月	セントラルリゾート宮古島 (旧ミヤコセントラルホテル)	宮古島市	135室
6月	たびのホテルlit 宮古島	宮古島市	111室
7月	ヒューイットリゾート那覇	那覇市	331室
7月	アウェイ沖縄古宇利島リゾート	今帰仁村	38室
7月	コンフォートイン那覇泊港 (旧レッドブラネット沖縄那覇)	那覇市	117室
7月	One Suite THE GRAND	今帰仁村	22室
7月	Rakuten STAY 那覇泊ふ頭	那覇市	25室
8月	Rakuten STAY 那覇やちむん通り	那覇市	18室
9月	テラスリゾート MIHAMA	北谷町	27室
10月	ニューノーマルホテルイン松山	那覇市	28室
10月	ブルーオーシャン ホテル&リゾート宮古島	宮古島市	24室
10月	HOTEL R9 The Yard うるま	うるま市	34室
10月	ザ・ビーチリゾート瀬底 by ヒルトンクラブ	本部町	140室
11月	ミュージックホテル コザ by コルディオプレミアム	沖縄市	64室
11月	フェニックスパークホテル (旧センチュリオンホテルリゾート沖縄名護シティ)	名護市	79室
12月	ALPHABED INN 那覇国際通り EAST	那覇市	26室
12月	ホテルグランアリーナ	沖縄市	31室
12月	ロイヤルビューホテル美ら海 (旧センチュリオンホテル&リゾート ウィンテージ沖縄美ら海)	本部町	120室
2022年 2月	HOTEL SANSUI NAHA 琉球温泉波の上の湯	那覇市	278室
3月	ネストホテル那覇西	那覇市	143室
3月	オリエンタルホテル 沖縄リゾート&スパ (旧オキナワマリOTT リゾート&スパ)	名護市	361室
3月	CABIN & HOTEL CONSTANT NAHA	那覇市	109室
4月	ホテルリソルトトリニティ那覇	那覇市	220室
4月	沖縄プリンスホテル オーシャンビューぎのわん	宜野湾市	340室
4月	AQUASENSE Hotel & Resort	恩納村	77室
4月	アパホテル那覇若狭大通 (旧那覇クリスタルホテル)	那覇市	105室
4月	レンブラントスタイル那覇	那覇市	146室
4月	NAHA 新都心HOTEL	那覇市	47室
6月	ホテル・アンドルームス那覇ポート	那覇市	236室
7月	琉球ホテル&リゾート名城ビーチ	糸満市	443室
7月	星野リゾート BEB5沖縄瀬良垣	恩納村	105室
7月	YUMIHA OKINAWA	恩納村	17室

資料：新聞記事やホームページをもとに(公財)日本交通公社作成

2021年4月に供用開始となった「モータースポーツマルチフィールド沖縄」は、整備の総事業費は約6億9千万円。敷地面積は約2万㎡の、沖縄市が設置した多目的施設。全国のさまざまなサーキットを参考に設計されたモータースポーツに特化した多目的コースで、中長期ビジョンとして本格的なサーキットの整備を目指す沖縄市にとって前段となる拠点整備となった。今後は、競技利用だけでなく、警察の技能訓練や交通安全教室など、幅広い用途での使用を想定している。

2021年6月に本格稼働となった「沖縄アリーナ」は県内最大となる1万人の観客を収容、施設内には510インチの大型ビジョンや60台のカメラで360度の全方向からの視点映像が見られる「4DREPLAY」など最先端技術が取り入れられた。沖縄市をホームタウンとするプロバスケットチーム「琉球ゴールデンキングス」のホームコートとして今後は定期的に試合が開催される他、音楽コンサートや展示会などさまざまな利用が行われる予定。なお、琉球ゴールデンキングスの「日本生命B.LEAGUE FINALS 2021-22」が東京体育館で行われた2022年5月にはビューイングイベントが開催され、キングスの優勝を願う多くのファンが駆けつけた。また、2023年にはインドネシア、フィリピンと共催する「FIBAバスケットボールワールドカップ(W杯)」の予選ラウンドの開催が予定されている。

表IV-8-2 2021年から2022年前半にかけてオープンした主な観光関連施設・アミューズメント施設

年月	施設名	所在地	概要
2021年4月	モータースポーツマルチフィールド沖縄	沖縄市	モータースポーツ用の多目的コースで、県内のモータースポーツニーズに対応すべく、ジムカーナやドリフト、レーシングカート、ミニバイクなどの競技ができるようになっている。
6月	沖縄アリーナ「琉球ゴールデンキングスホームコート」	沖縄市	県内最大の収容人数を誇る多目的アリーナ。スポーツイベントを始め、音楽イベント、展示会などさまざまな用途に利用可能。
7月	DMMかりゆし水族館(リニューアル)	豊見城市	2020年5月にオープンした映像表現と空間演出を組み合わせた新機軸のエンタテインメント水族館。1周年を迎えて3つのエリアをリニューアル。
2022年6月	サンエー宮古島シティ	宮古島市	延床面積11,912㎡、14のテナントが入る大型ショッピングモール。建築費高騰などの影響を受け計画当初より縮小されたが、市内最大級の規模となる。
7月	タウンプラザかぬひでなご湾市場	名護市	延床面積2,313㎡。食品スーパーを中心にドラッグストアなど、複数店舗が出店する商業施設。

資料：新聞記事やホームページ等をもとに(公財)日本交通公社作成

(3) 沖縄県観光振興基本計画の策定

沖縄県では2022年7月、2031年度までの沖縄観光振興の基本的な指針となる「第6次沖縄県観光振興基本計画」を策定、公表した。

同計画案では、目指す将来像を「世界から選ばれる持続可能な観光地」に定め、社会、経済、環境の三側面において調和が取れた沖縄観光の実現のため「持続可能な観光地域づくりの追求」に取り組むこととしている。計画の目標値として第5次計画までで設定していた観光収入、入域観光客数などの経済指標に対して、社会の視点(県民の幸せ感、観光事業者の満足度、観光客の満足度)、環境の視点(再生可能エネルギー対応施設数、アメニティグッズ廃止を導入している施設数、フー

ドロス削減を推奨しているホテル数)などの視点を加えたことが特徴的で、経済の視点についても入域観光客数を目標値から外し、「観光収入」「人泊数」「観光事業者の年収」として、「量(人数)」から「質」への転換を強調した内容となっている。なお、観光収入の目標値は1兆2,000億円に設定され、従来の計画から1,000億円の上積みで、観光客の一人あたり消費額を増やすことで達成することを目指している。

また、同計画は観光庁とUNWTO駐日事務所が策定した「日本版持続可能な観光ガイドライン」を参考に、基本施策について持続可能な観光地マネジメントのための85の成果指標(KPI)を設定しており、引き続き積極的に持続可能な観光の推進を図ることとしている。

(4) コロナ禍前後の県内宿泊施設稼働率の推移

本土復帰した1972年以降の県内宿泊施設(ホテル・旅館)の軒数及び収容人数をの推移を図IV-8-6及び図IV-8-7に示す。

軒数は、小規模(100人未満)の施設が最も多く、次いで中規模(100~299人)、大規模(300人以上)の順となっている。軒数の推移の傾向は規模によって異なり、大規模及び中規模の施設は復帰以降、徐々に増加をしてきた一方、小規模の施設は概ね150~250軒の間を横ばいに推移してきた。しかし、2017年以降に急増し、2018年に300軒、2019年に400軒、2020年に500軒を突破した。

一方、収容人数で見ると全体の中で大規模施設の占める割合が最も多く、次いで中規模施設、小規模施設の順となっている。収容人数の推移は概ね軒数の推移と同様で、全体的には右肩上がり増加を続けている。

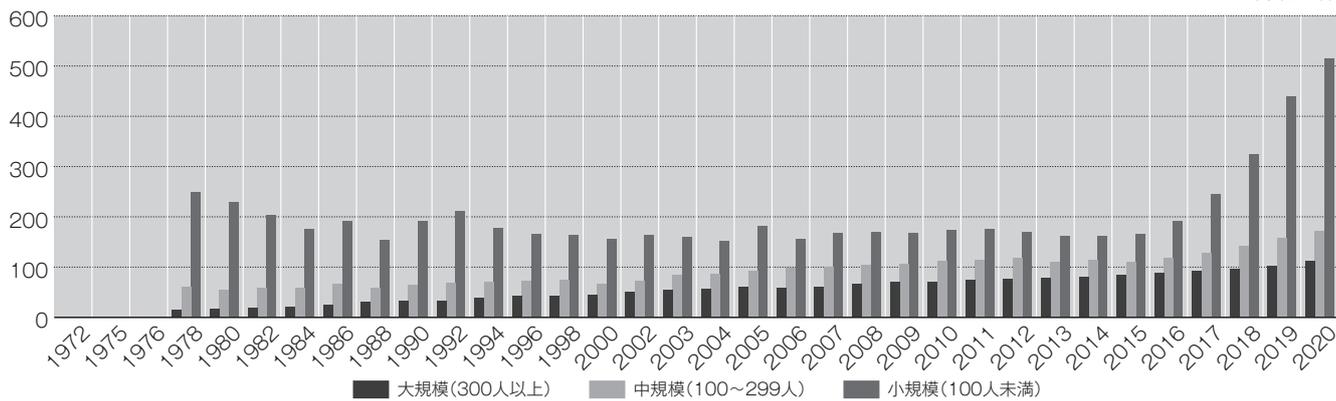
このように宿泊施設の軒数・収容人数が増加する中で、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた2020年、2021年には各施設の稼働率が大幅に低下することとなった。2020年及び2021年の県内のリゾートホテルとビジネスホテルの稼働率を表IV-8-8から表IV-8-11に示す。

リゾートホテルの稼働率は、2020年が年間で21.6%(全国平均21.3%)、2021年が年間で17.7%(全国平均18.9%)で、2019年の年間が51.0%(全国平均42.6%)であったことと比較すると大幅な減少となっている。月別で推移を見ると2020年5月にほぼゼロまで稼働率が落ち込み、その後は上下しながら徐々に回復傾向にあるものの、2021年12月時点でも30%には至らず、苦しい状態が続いている。ビジネスホテルの稼働率の2020年・年間は29.9%(全国平均32.5%)、2021年・年間は24.1%(全国平均32.4%)となった。2019年の年間は59.7%(全国平均62.8%)で、大幅な減少と月別の推移の傾向はリゾートホテルと概ね同様だが、2021年の落ち込みが全国やリゾートホテルと比較して、さらに大きくなっている。(2)でも述べたように、宿泊施設の開業は2021年から2022年にかけても高水準で続いており、また、県として「量(人数)」から「質」を目指した観光振興を図る中で、稼働率の観点から見るとかなり苦しい状況が今後も続くことが想定される。

(中島泰)

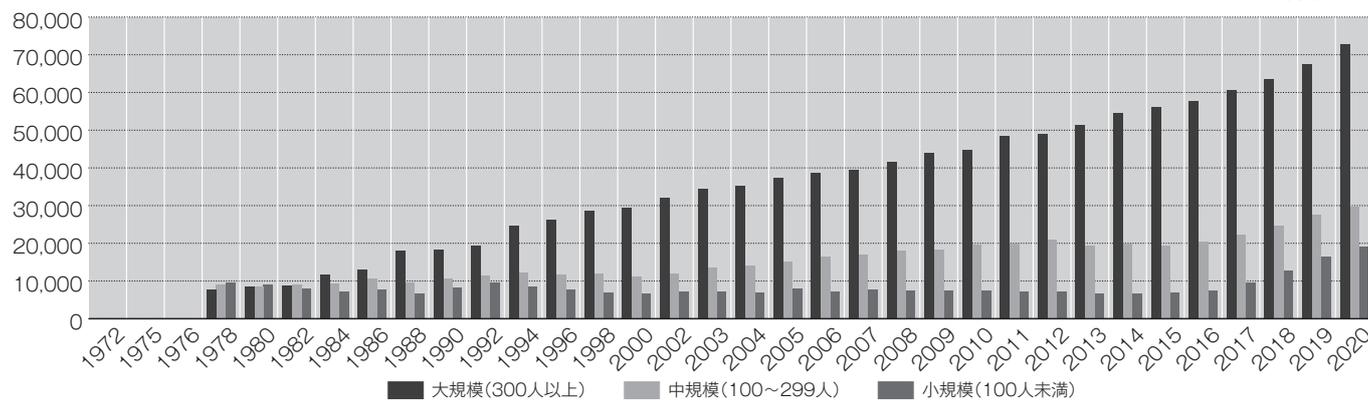
図IV-8-6 県内ホテル・旅館の軒数の推移

(単位：軒)



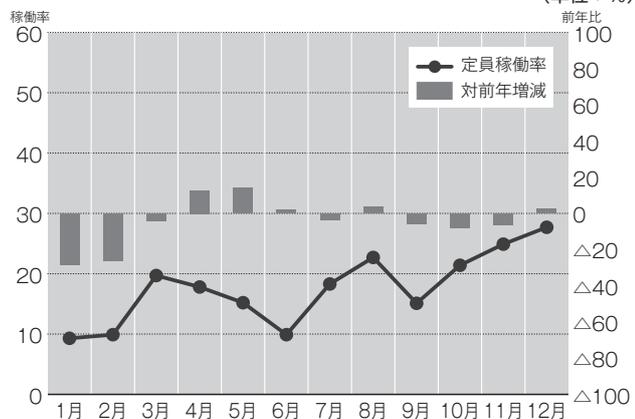
図IV-8-7 県内ホテル・旅館の収容人数の推移

(単位：人)



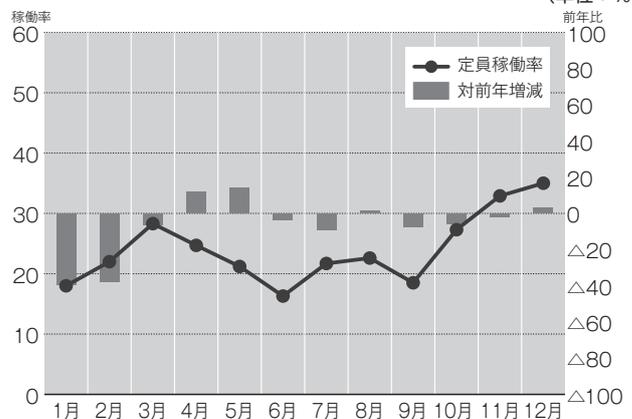
図IV-8-8 県内リゾートホテルの稼働率及び前年比(2021年)

(単位：%)



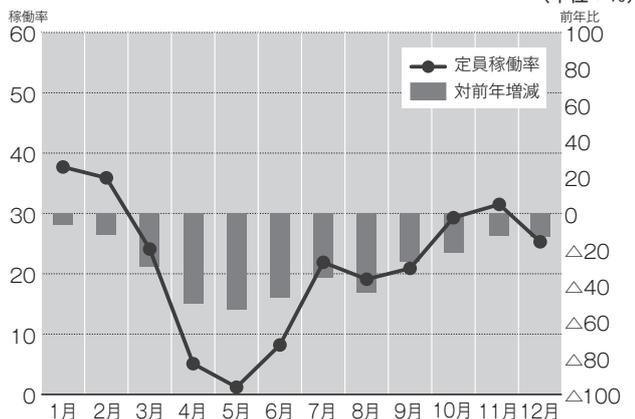
図IV-8-9 県内ビジネスホテルの稼働率及び前年比(2021年)

(単位：%)



図IV-8-10 県内リゾートホテルの稼働率及び前年比(2020年)

(単位：%)



図IV-8-11 県内ビジネスホテルの稼働率及び前年比(2020年)

(単位：%)

